

第2節 大刀洗町のあゆみ

① 沿革

大刀洗町は、旧藩時代、久留米藩に属し、明治4年(1871年)廃藩置県により久留米県より三潴県に、明治9年(1876年)三潴県を廃して福岡県となりました。明治22年(1889年)町村制改革により大堰村(富多・菅野・三川・西原・守部・中川の6力村)、本郷村(本郷・甲条・春日・栄田の4力村)、大刀洗村(高樋・上高橋・今・鵜木・下高橋・山隈の6力村)となりました。

旧3村にはそれぞれ、故事に由来する村名がつけられました。昔から、御井郡{久留米市(東部及び西部の一部を除く)、久留米市北野町、小郡市南部}、御原郡{大刀洗町、小郡市(南部を除く)}は、水利に乏しく干ばつに襲われることがしばしばでした。これを解決するため正徳2年(1712年)に高山六右衛門^{たかやまろくえもん}*は久留米藩の許可を得て、草野又六*の協力を受け筑後川の堰き止め工事に着工し、80数日後に堰が完成しました。これが大堰村の名の起りと云われます。

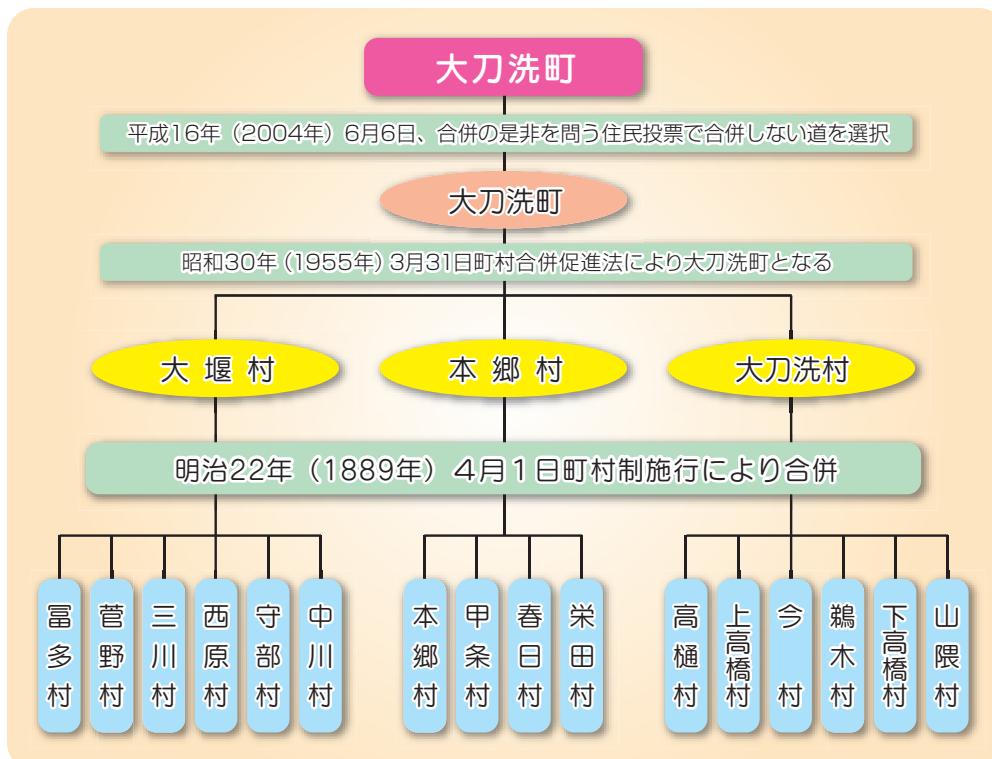
旧本郷村は、藩政当時の宿駅で一小市街をなし、著名であったので村名にしたと云われます。

旧大刀洗村の名称は正平15年(1359年)、菊池武光が小弌頼尚と大原合戦で交戦し、朝来の血刀を山隈原を貫流している小川で洗えば、刃はのこぎりの様にこぼれ、川の水は朱に染まったという故事によります。現大刀洗の地名も、この故事をもとにしています。

菊池の地名も、菊池武光にちなんだものであります。菊池一族が一致団結して、戦国の世を南朝に誠忠を貫き通した精神が共感を呼んだのでしょうか。

昭和30年(1955年)3月31日、町村合併促進法により、大堰村・本郷村・大刀洗村の3力村が合併し大刀洗町が誕生しました。

大刀洗町の変遷



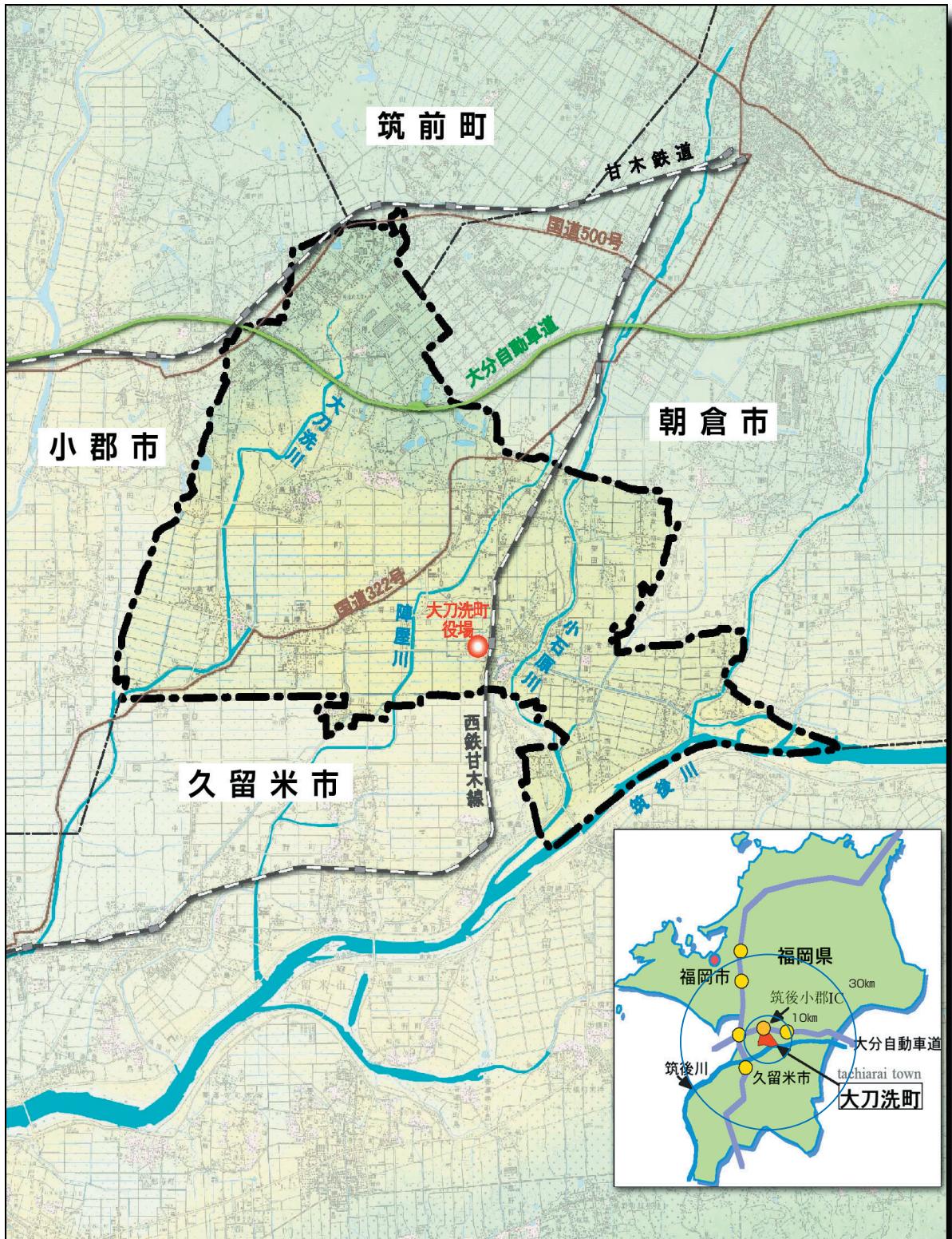
2 位置と地勢

本町は、福岡県の中南域を占める筑後平野の北東部、筑後川の中流域北岸に位置します。東は朝倉市(旧甘木市)、南は久留米市(旧田主丸町・旧北野町)、西は小郡市、北は小郡市と筑前町(旧三輪町)にそれぞれ隣接している東西8.0km、南北6.5km、総面積22.83km²の平坦な農業地域です。

町の南部は、日本の三大河川のひとつである筑紫次郎こと「筑後川」が東西に緩やかに流れおり、沖積層*の肥沃な農地と豊かな恵みが与えられています。北部は、洪積層*の酸性土壌で、米、麦、植木などの産地となっています。

周辺の市町村とは、大分自動車道や国道322号、500号、主要地方道久留米筑紫野線の他11路線の県道によって結ばれています。

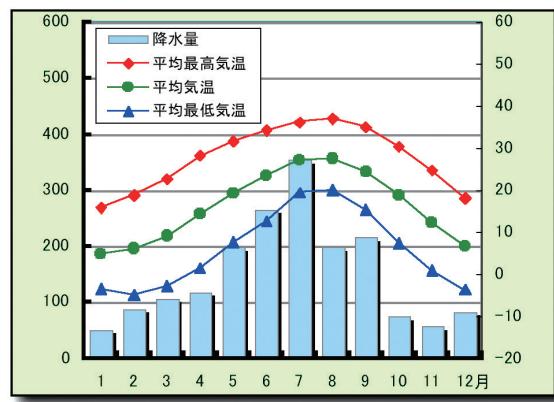
大刀洗町の広域図



資料「国土地理院」の数値地図25,000（地図画像）

3 気候

気候は、西九州内陸型の有明海型気候区分に属し、昼間と夜間の温度差がある内陸性です。年間の平均気温は16℃前後で年間降水量は1,800mm程度となっています。

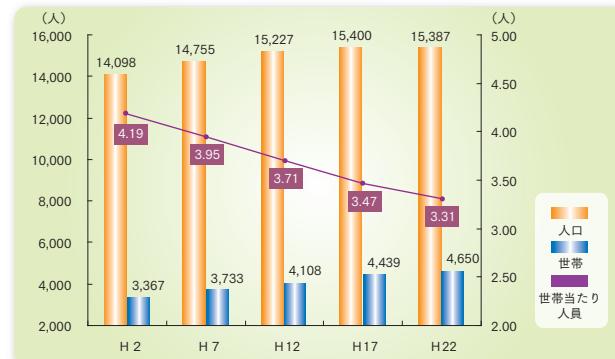


4 人口と世帯

本町の人口は、平成17年(2005年)の国勢調査結果では15,400人となっており、平成7年(1995年)の14,755人からの10年間で645人(約4%)と増加しています。しかし、平成7年から平成12年までは472人(3%)の増加に対し、平成12年(2000年)から平成17年までは173人(1%)の増加と増加率が減少していく傾向にあります。

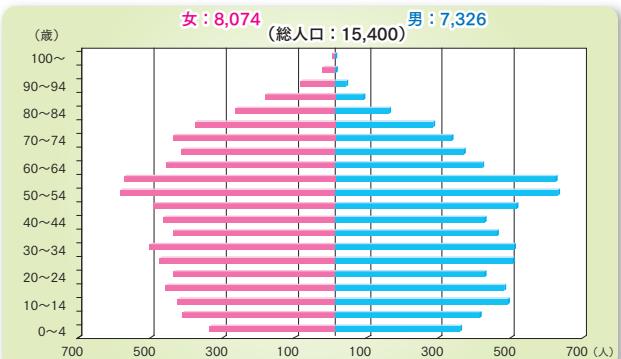
世帯数については、4,439世帯と増加傾向にあり、この10年間で706世帯(19%)の増加となっております。しかしながら、世帯数の増加率に比べ、人口の増加率は低い状況にあり、1世帯あたりの人員は平成7年の3.95人から平成17年の3.47人と減少しており核家族化が進行しています。

人口・世帯の推移



資料：国勢調査 ただし、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計値

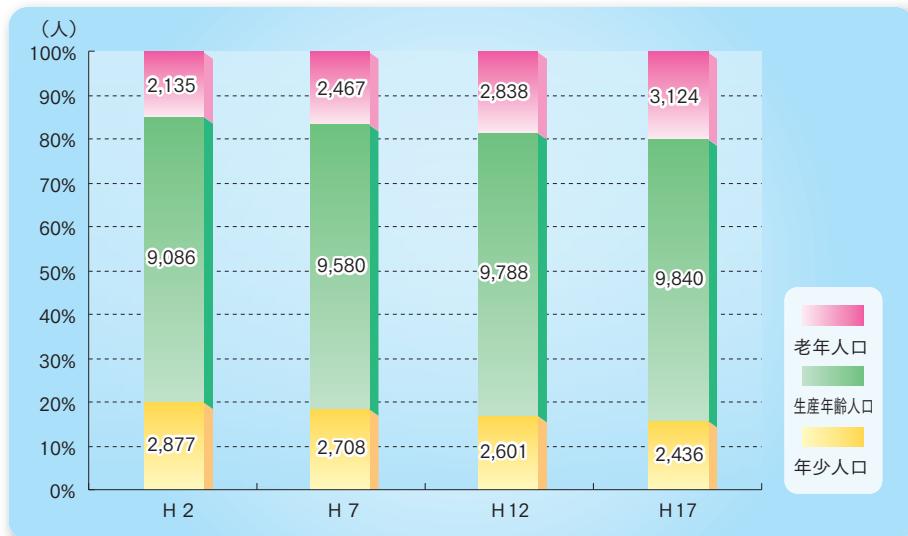
年齢・男女別人口構成（2005年）



資料：国勢調査

平成17年の本町の人口を年齢階層別に見ると、14歳以下の年少人口は2,440人(15.8%)、15歳から64歳までの生産年齢人口^{*}は9,865人(64.1%)、65歳以上の老人人口は3,095人(20.1%)となっています。年少人口比率は全国(13.7%)、県(13.9%)、を上回るもの、生産年齢人口比率は全国(65.8%)、県(65.9%)より下回り、老人人口比率は全国(20.1%)、県(19.8%)をやや上回る結果となっており少子・高齢化の兆しがうかがわれます。

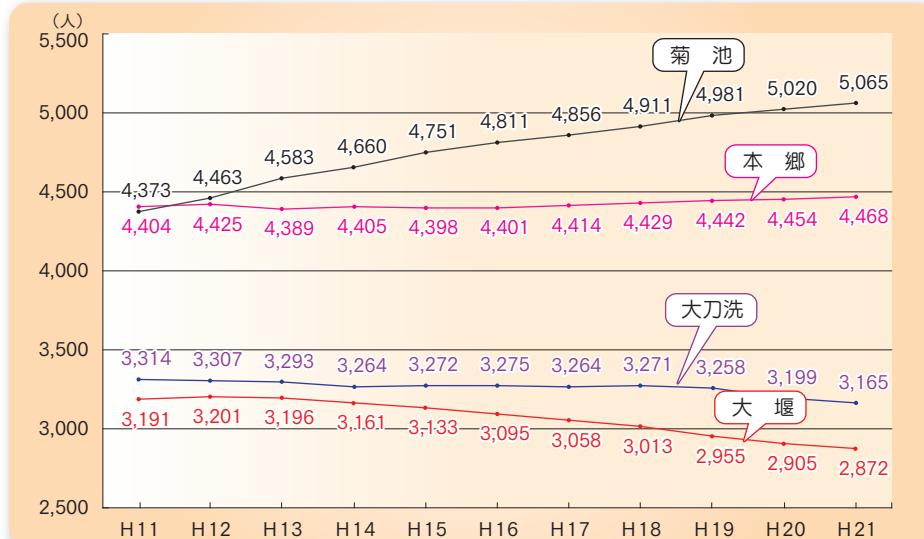
年齢階層別人口の推移



資料：国勢調査 ただし、平成22年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計値

本町は大堰、本郷、大刀洗、菊池の各小学校区に分かれており、人口の推移は南部の大堰校区が減少しており、中部の本郷、大刀洗校区が横ばいの傾向にあります。住宅地化が進む北部の菊池校区は著しく増加しています。

小学校区別人口の推移



資料：住民基本台帳